

第5回 瀬戸内海環境シンポジウム in 広島

～環境修復事例報告会～

国土交通省中国地方整備局では、平成17年2月に「瀬戸内海環境修復計画」を策定（水産庁漁港漁場整備部と共同）し、「瀬戸内海にふさわしい環境の確保・維持、失われた良好な環境の回復」を目的とした浅場等の修復に係る取り組みを進めています。この度、計画の策定から5年を迎えることから、計画策定後の瀬戸内海における環境修復の取り組み状況に関する報告会を開催します。

プログラム

開会挨拶

上野 進一郎（中国地方整備局 副局長）

業務報告

「瀬戸内海における環境修復の取り組み状況について」

相田 大作（中国地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課長）

事例報告

環境修復の主要な取り組み事例について

事例1

「津田湾におけるシーブルー事業のモニタリング結果について」
吉川祐子（四国地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課）

事例2

「緩傾斜護岸の生物多様性向上技術に関する研究について」
井口 薫（近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所）

事例3

「泥質干潟造成技術について」
中村伸夫（九州地方整備局 下関港湾空港技術調査事務所）

事例4

「アマモ場を組み込んだ漁場造成の実践について」
鳥井正也（岡山県 農林水産部 水産課）

特別講演

「瀬戸内海の水底質の現状と環境修復のためのリサイクル材の利用について」

山本 民次（広島大学大学院 生物圏科学研究科 教授）

瀬戸内海等の閉鎖性海域に対する流入負荷は、経済の高度成長期以前のレベル近くまで削減されてきているにも関わらず、奥部などには、ほぼ無生物の「デッド・ゾーン」が存在する。したがって、水質を改善するというよりも生物の生息を取り戻すため、「デッド・ゾーン」の原因となっている貧酸素や硫化水素の発生を引き起こしている底質の改善が重要である。ここでは、底質改善に利用可能な、砂の代替材としてのリサイクル材に関する最新の研究成果を交えた報告を行う。

山本 民次

【主な経歴】

2004年～広島大学 教授
1995年～広島大学 助教授
1991年～広島大学 講師
1985年～愛知県水産試験場 技師

【専門分野】

水圏環境学，環境動態解析



閉会挨拶

東山 茂（中国地方整備局 港湾空港部長）

日時

平成21年11月13日（金）

14:30～17:00（14:00より受付）

場所

広島合同庁舎1号館付属棟2階大会議室

参加費
無料

主催 国土交通省 中国地方整備局

共催 国土交通省 近畿地方整備局／国土交通省 四国地方整備局／国土交通省 九州地方整備局／社団法人土木学会 中国支部

後援 水産庁 漁港漁場整備部／環境省 中国四国地方環境事務所／瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会／財団法人日本水環境学会／日本沿岸学会／広島大学 流域圏環境再生プロジェクト研究センター

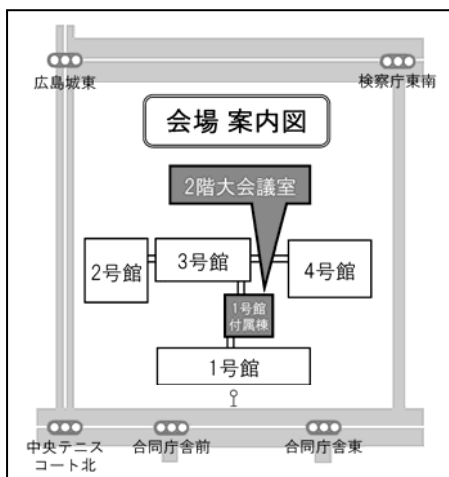
申込方法

必要事項をご記入の上、下記の申込書にてFAX、もしくはE-mailにてお申込み下さい。E-mailでのお申込みの場合は、申込書の記載内容を全てご記入の上、お申込み下さい。
 なお、申込者多数の場合には、先着 100 名様にて締め切らせていただきます。

申込先・問合せ先

国土交通省 中国地方整備局
 港湾空港部 海洋環境・技術課
 担当：大串（おおぐし）、小野（おの）
 〒730-0004 広島市中区東白島町 14-15
 NTTクレド白島ビル 13F
 Tel：(082)511-3908
 Fax：(082)511-3910
 E-mail：moushikomi@pa.cgr.mlit.go.jp

会場案内図・位置図



[交通案内]

- 路面電車(広島電鉄)／「広電広島」駅から「紙屋町東」電停まで約15分 →「紙屋町東」電停下車 徒歩約10分
- バス／広島駅バス乗り場(Bホーム8、9番乗り場)より「高陽方面」「可部方面」行き乗車(案内表示は緑色に乗る) →「合同庁舎前」バス停下車 徒歩2分
- アストラムライン／「県庁前」下車 徒歩10分

参加申込書 (FAX 送信票)

FAX 送信先： 082-511-3910 (国土交通省 中国地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課 宛)

申込者

名前			
団体名			
所属			
連絡先	TEL		FAX
	E-mail		

参加希望者 (申込者以外)

名前	団体名・所属

- ◆ 個人情報の取扱いについて
 本応募にあたり収集した個人情報は、シンポジウム参加者の集計以外には、使用しません。